

所 管	教育委員会 文化課		
担 当	塚本	問い合わせ	0573-26-2153

報 道 機 関 各位

明知陣屋跡発掘調査（令和8年度）の成果説明会の開催について

市では、明知城跡（県史跡）の国史跡指定を目指して、令和6年度より4年計画で明知城跡総合調査事業を実施しています。調査の結果、従来考えられていたよりも、山城の存続時期が長いことが判明し、山城から陣屋への移行は緩やかだったと想定されました。陣屋についても造成状況、遺物を確認し、時期差を明らかにすることで、山城と陣屋の时期的なつながりを明らかにするため「明知陣屋跡」の発掘調査を実施しました。つきましては、調査成果の説明会を下記のとおり開催しますので、ぜひ取材くださいますようお願いいたします。

記

1. 日 時 令和8年8月1日（土） 小雨決行
報道機関向け：午後1時～1時半 一般向け：午後2時～3時
2. 場 所 明知陣屋跡（集合場所：明智保育園跡地 明智町 1391-1 大正ロマン館駐車場という看板があります）
※取材いただける場合は事前にご連絡ください



3. 令和8年度発掘調査の概要

- (1) 調査箇所 明知陣屋跡
- (2) 調査面積 2メートル×2メートルのトレンチを2箇所
- (3) 調査期間 令和8年6月6日～8月7日頃
- (4) 調査主体 恵那市教育委員会



4. 調査で明らかになったこと

明知陣屋の痕跡を確認

明知陣屋の時代の遺物包含層を確認しました。この層からは下記の江戸時代の遺物が出土しています。この層の時期は18世紀後半以降の可能性が高いです。

・江戸時代の層から出土した遺物

多くは18世紀後半以降の遺物でしたが、17世紀初頭とみられる天目茶碗も1点出土しています。



播鉢

瓶類

土瓶

天目茶碗

灰釉

5. 中井均（なかい ひとし）氏のコメント

滋賀県立大学名誉教授、恵那市明知城跡調査検討委員会委員長

「明確な遺構は発見できなかったが、江戸時代の遺物包含層を確認できた。
明知城と明知陣屋のつながりを考察する手がかりを得ることができた。」

6. 「明知陣屋跡」について

（1）概要

明知陣屋跡は江戸時代に明知遠山氏が領地支配の拠点として利用した場所でした。背後に明知城跡が接し、戦国時代から江戸時代にかけての領主拠点の変遷が伺える遺跡です。1678年に明知遠山氏が江戸へ定府したのちも、幕末まで代官が明知遠山氏の領地を支配する拠点として活用しました。

（2）所在地 岐阜県恵那市明智町字古町

7. 今後の予定

- | | |
|------------|----------------------|
| ・ 令和 9 年度 | 総合調査報告書刊行 |
| ・ 令和 10 年度 | 調査完了後に国史跡指定の意見具申を目指す |